

令和6年度
農 学 科
授 業 計 画
シラバス



千葉県立農業大学校

1 農学科教育課程

千葉県立農業大学校校則(第18条関係)

教育課程表(農学科)(令和6年度)

令和6年度入学生(1年生)

科目群	科目	単位	時間	1年		2年		備考	
				前期	後期	前期	後期		
教養科目	一般	教養基礎講座	2	30	○				
	人文科学	文学	2	30		●			
		哲学	2	30	○				
	社会科学	法学	2	30	○				
		経済学	2	30	○				
		社会学	2	30		●			
	自然科学	数学	2	30	(開講せず)				
		化学	2	30	○				
		生物学	2	30	○				
	保健体育	保健・体育実技	2	60	◎				
外国語	基礎英語会話	2	30		●				
	英語会話	2	30				●		
小計		20	330						
		以上	以上						
専門教育科目	共通必修科目	生物化学実習	4	120	◎				
		農場実習	8	240	◎				
		国際農業実習	2	60		●			
		農業派遣実習	3	90	◎				
		キャリアサポート実習	4	120	◎				
		情報処理概論Ⅰ	2	30		●			
		作物・園芸学概論	2	30	○				
		植物防疫概論	2	30			○		
		土壌肥料概論	2	30	○				
		畜産学概論	2	30	○				
	共通選択科目	農業経営・経済学概論	2	30		●			
		農業会計論	2	30		●			
		農業生産工程管理論	2	30				●	
		農業機械実習	3	90	◎				
		食品学	2	30				●	
		食品加工実習	3	90		◎			
		流通マーケティング論	2	30	○				
		キャリア基礎講座	2	30		●			
		小計		49	1,140				
共通選択科目	農業環境概論	2	30	○					
	生物統計学	2	30		●				
	農業工学	2	30			○			
	農業法律学	2	30		●				
	農業協同組合論	2	30				●		
	情報経営論	2	30				●		
	農業経営学	2	30				●		
	情報処理概論Ⅱ	2	30			○			
	農業史	2	30		●				
	農業気象学	2	30			○			
	新農業技術論	2	30				●		
	国際食料・農業事情論	2	30				●		
園芸療法論	2	30				●			
小計		12	180						
		以上	以上						

科目群	科目	単位	時間	1年		2年		備考
				前期	後期	前期	後期	
植物系科目	植物生理学	2	30				●	
	植物育種学	2	30			○		
	病理・昆虫学	2	30				●	
	土壌・肥料学	2	30			○		
	作物学	2	30			○		
	野菜園芸学	2	30				●	
	果樹園芸学	2	30				●	
	花き園芸学	2	30				●	
	小計		12	180				
			以上	以上				
動物系科目	家畜育種学	2	30			○		
	家畜繁殖学	2	30				●	
	家畜生理学	2	30			○		
	家畜環境保全学	2	30				●	
	飼料学	2	30			○		
	酪農・肉牛	2	30				●	
	養豚	2	30				●	
	養鶏	2	30				●	
	小計		12	180				
			以上	以上				
専攻実習		15	450			◎		
卒業論文		4	120			◎		
合計		112	2,400					
		以上	以上					

○講義は、1単位15時間

○実習は、1単位30時間

○:前期

●:後期

◎:通年

2 時間割

令和6年度 農学科 時間割

前期					後期						
学年	農学科1年				学年	農学科2年					
時限	I	II	III	IV	時限	I	II	III	IV	V	
時刻	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~	時刻	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~
月	SS 農業環境概論 (多田) 【第1講義室】	SR 畜産学概論 (前之園) 【第1講義室】	A GE保健・体育実技 (大塚) 【体育館・第2講義室】	B GE保健・体育実技 (大塚) 【体育館・第2講義室】	HR 担任 【第1】	月	SR 専攻実習・卒業論文 (各担当) 【各専攻教室】		SS 農業工学 (池尻) 【第3講義室】	SSP 植物育種学 (中田) 【第3講義室】	HR 担任 【第3】
火	隔) SR キャリアサポート実習 (高田・本多・佐瀬・中田・山下(雅)・菅原) 【第1講義室・外部】					火	A SS 情報処理 概論Ⅱ(野尻) 【パソコン室】	B SS 情報処理 概論Ⅱ(野尻) 【パソコン室】	SSP 土壌肥料学 (吉田) 【第3講義室】	SSP 作物学 (板倉) 【第3講義室】	
水	GE 経済学 (渡辺) 【第1講義室】	GE 生物学 (国武) 【第1講義室】	A SR 教養基礎講座 (田邊) 【第2講義室】	B SR 教養基礎講座 (田邊) 【第2講義室】		水	SR 専攻実習・卒業論文 (各担当) 【各専攻教室】		SR 専攻実習・卒業論文 (各担当) 【各専攻教室】		
木	SR 農場実習 (実習担当) 【各農場】		SR 生物化学実習 (中田・清水・佐々木・山下(雅) ・永山・高田・菅澤) 【生物・化学系実験室】			木	SS 農業気象学 (宮田) 【第3講義室】	SR 植物防疫概論 (宮井) 【第3講義室】	SR 食品加工実習 (木内・柴野・今井・山下(富)) 【食品加工実験室・その他】		
金	GE 法学 (大島) 【第1講義室】	SR 流通 マーケティング論 (中山) 【第1講義室】	SR 農場実習 (実習担当) 【各農場】			金	(就農・就職活動 専攻実習等補習)		SR 専攻実習・卒業論文 (各担当) 【各専攻教室】		

GE 教養科目 SR 専門必修 SS 専門共通選択 SSP 植物系科目 SSA 動物系科目

外部講師のみの講義

前期					後期						
学年	農学科1年				学年	農学科2年					
時限	I	II	III	IV	時限	I	II	III	IV	V	
時刻	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~	時刻	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~
月	GE 基礎英語会話 (安井) 【第1講義室】	SR 農業会計論 (井上) 【第1講義室】	A GE保健・体育実技 (大塚) 【体育館・第1講義室】	B GE保健・体育実技 (大塚) 【体育館・第1講義室】	HR 担任 【第1】	月	SS 農業経営学 (井月) 【第3講義室】	SSP 花き園芸学 (菅澤) 【第3講義室】	SR 専攻実習・卒業論文 (各担当) 【各専攻教室】		HR 担任 【第3】
火	GE社会学 (島村) 【第1講義室】	SR農業経営・経済学 概論 (保坂) 【第1講義室】	SR 生物化学実習 (中田・清水・佐々木・山下(雅) ・永山・高田・菅澤) 【生物・化学系実験室】			火	SSP 果樹園芸学 (佐々木) 【第3講義室】	SSP 野菜園芸学 (小林) 【第3講義室】	GE 英語会話 (石橋) 【第2講義室】	SS 情報経営論 (清田) 【パソコン室】	
水	SR キャリアサポート実習 (高田・本多・佐瀬 ・中田・山下(雅)・菅澤) 【第1講義室・外部】		SR 農場実習 (実習担当) 【各専攻教室】			水	SR 食品学 (柴野) 【第3講義室】	SS 農業協同組合論 (伊木) 【第3講義室】	SR 専攻実習・卒業論文 (各担当) 【各専攻教室】		
木	SRキャリア基礎講座 (大島・佐藤・土屋・田中) 【第1講義室】	GE 文学 (芦木) 【第1講義室】	SR 食品加工実習 (木内・柴野・今井・山下(富)) 【食品加工実験室・その他】			木	SS 新農業技術論 (藤井) 【第3講義室】	SS 国際食料 農業事情論 (佐藤) 【第3講義室】	SS 園芸療法論 (多田) 【第3講義室】	SR 農業生産工程管理論 (成田) 【第3講義室】	
金	SS農業法律学 (大島) 【第1講義室】	SS 農業史 (宮崎) 【第1講義室】	SR 農場実習 (実習担当) 【各専攻教室】			金	SSP 病理昆虫学 (清水) 【第3講義室】	SSP 植物生理学 (永山) 【第3講義室】	SR 専攻実習・卒業論文 (各担当) 【各専攻教室】		
		SS生物統計学 (清田) 【パソコン教室】					SSA 家畜繁殖学 (渡辺一夫) 【第4講義室】	SSA 家畜環境保全学 (山下(瀧)) 【第4講義室】			

GE 教養科目 SR 専門必修 SS 専門共通選択 SSP 植物系科目 SSA 動物系科目

外部講師のみの講義

3 教養科目

授業科目 (履修区分)	教養基礎講座 (教養科目・一般)	担当教員	田邊 伊兵衛
対象年次	農学科1年	期別	令和6年度 前期
単位数	2単位	時間数	30時間
教育目標	農学を学ぶ上で必要な数学や化学・物理の基礎知識を学び、基礎的科学的力の充実を図り、専門科目の理解と修得を支援する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農学に必要な科学的基礎力とは 2. 農学に必要な計算技術 (I) 3. 農学に必要な計算技術 (II) 4. 国際単位・JAS・JIS関連単位系の修得 5. 農学に必要な科学知識 (I) (物質の構成要素とその理解) 6. 農学に必要な科学知識 (II) (基本的な化学反応とその理解) 7. 農学に必要な科学知識 (III) (水・水溶液の役割とその理解) 8. 農学に必要な科学知識 (IV) (土壌・肥料に必要な化学知識) 9. 農学に必要な科学知識 (V) (作物や食品に必要な化学知識) 10. 農学に必要な数学知識 (VI) (農地の効率的活用について) 11. 農学に必要な科学知識 (VII) (分析化学に必要な知識) 12. 農学に必要な科学知識 (VIII) (力学) 13. 農学に必要な科学知識 (IX) (熱・温度) 14. 農学に必要な科学知識 (X) (波と光・電気) 15. 農学に必要な科学知識の修得確認 (期末試験) <p>*講義に臨むに当たって、テキストの事前学習・練習問題を各自、学習することが望ましい。</p>		
テキスト	講義担当者作成小冊子 (教養基礎講座テキスト)		
成績評価の方法	期末試験・レポート・小テストと授業への参加・取り組みを総合的に評価する。		
備考	参考図書 やさしく学べる基礎化学 (森北出版) やさしく学べる基礎物理 (森北出版) 誰でもできる化学濃度計算 (丸善出版)		

授業科目 (履修区分)	文学 (教養科目・人文科学)	担当教員	芦木 亜彩湖
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>この授業では、主に400～600字程度の文章を書くことを通して、日本語表現能力を身につけることを目標とする。</p> <p>文章の書き方の基礎的な知識を学んだ上で、自分のことを説明する説明文、物事を時系列に沿って説明する歴史文、テーマに関する意見文など、さまざまなタイプの作文を書くことで、自らの表現能力を磨く。</p> <p>また、書くだけではなく、意見交換などで話す技能を向上させることも目標とし、授業後半ではディベートを行う。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・自己紹介 2 文章の書き方① ー正確な文章を書く 3 文章の書き方② ー自然な流れの文章を書く 4 文章の書き方③ ー説得力のある文章を書く 5 説明文を書く① ー自分の故郷の説明文 6 説明文を書く② ー好きな作品の紹介文 7 歴史文とは何か? ー根拠を示して分かりやすい文章を書く 8 歴史文を書く① ー自分の趣味についての歴史文 9 歴史文を書く② ー自分の夢や目標についての歴史文 10 意見文を書く ー自分の意見を効果的に伝える 11 ディベート① ーディベートとは何か学ぶ 12 ディベート② ーディベートをするための準備をする 13 ディベート③ ーディベート本番 14 ディベート④ ーディベートの議題に対する意見文を書く 15 期末試験 		
テキスト	必要に応じてプリントを配布。		
成績評価 の方法	<p>期末試験と平常点によって評価する。</p> <p>期末試験50%、平常点(提出物・授業態度)50%</p>		
備 考	参考図書『わかりやすく書ける作文シラバス』(くろしお出版/2017年)		

授業科目 (履修区分)	哲学 (教養科目・人文科学)	担当教員	高橋 克典
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>「あなたは何のために生きているのですか?」と聞かれたら、皆さんは何と答えますか?そもそも自分とは一体何なのでしょう?それを過不足なく言葉にして表現することなど不可能に等しいのかもしれませんが。とはいえ、私たちは常にこのことを問いながら、生きていかなければならないともいえるのでしょう。</p> <p>自立した一人の人間として、自分自身で考え、判断し、責任をもって行動する力を身に着けるために。まずは、身近な問題を軸におきながら、多角的に考える力を養うことを目指しましょう。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 あなたの夢 3 読書から学ぶ 4 偏愛マップ 5 生命倫理について 6 ことばの多様性について 7 芸術から学ぶ 8 幸福について 9 自由について 10 愛について 11 現代事象から学ぶ① 12 現代事象から学ぶ② 13 詩について 14 期末試験 15 総括 <p>事前学習 参考図書の指定箇所を読み、課題提出 事後学習 講義後、課題の考察を行う。</p>		
教科書 参考書	<p>「14歳からの哲学」 池田晶子 (トランスビュー)</p>		
成績評価 の方法	<p>講義内容取組 (30%)、課題レポート・小テスト (40%) 期末試験 (30%)</p>		
備 考			

授業科目 (履修区分)	法学 (教養科目・社会科学)	担当教員	大島 大
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期
単 位 数	2単位	時間数	30時間
教育目標	憲法・民法等の個々の法律の知識に加え、法律的なものの考え方を習得する。		
授業内容	1回 「法」とは何か 法律・法について、その定義や歴史、分類など。 2回 憲法 1 わが国の憲法・立法（国会）。 3回 憲法 2 行政（内閣）・司法（裁判所）。 4回 憲法 3 基本的人権について、自由権。 5回 憲法 4 基本的人権の続きで、社会権、参政権など。 6回 刑法・刑事訴訟法 刑罰の種類や刑事裁判までの手続き。 7回 裁判 裁判所の種類、刑事裁判・民事裁判のながれ。 8回 民法 1 「人」とは何か。 9回 民法 2 「物」とは何か、所有権。 10回 民法 3 物権変動、登記・引渡しについて。 11回 民法 4 契約とは何か、契約の種類について。 12回 民法 5 契約が履行されなかった場合。時効。 13回 民法 6 親族法、夫婦・親子について。 14回 民法 7 相続法 相続とは何か。 15回 期末試験		
テキスト	使用しません。毎授業時にレジュメを配布する。 必要のあるときに随時紹介する。		
成績評価 の方法	定期試験を実施する。評価配分は以下の通り。 定期試験（50%）、授業への参加・取組（50%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	経済学 (教養科目・社会科学)	担当教員	渡辺 修朗
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	1 社会人として必要な政治・経済に関する基礎的な知識を身に付ける。 2 政治経済に関する学習を通して、現代社会の動きをみる視点を養い、将来のビジネスに関する展望を持てるようにする。		
授業内容	1回 市場経済と競争 2回 市場経済と資源の最適配分 3回 市場経済と価格 4回 市場経済の成立する条件 5回 近代以前の社会 6回 近代国家の成立と市場経済 7回 自由主義経済の世界 8回 資本主義の成立 9回 20世紀の危機 10回 マクロ経済政策と戦後の世界 11回 戦後の日本経済Ⅰ (戦後復興期～高度成長期) 12回 戦後の日本経済Ⅱ (安定成長期～バブルの崩壊) 13回 新自由主義経済論 14回 転換期の世界経済 15回 期末試験		
テキスト	「教養としての政治と経済」(渡辺修朗 学文社)		
成績評価 の方法	成績評価の点数配分については以下のとおりとする 定期試験 (50%)、課題 (30%)、授業への参加 (20%) から判断		
備 考			

授業科目 (履修区分)	社会学 (共通必修)	担当教員	島村 賢一
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	社会学の基本的な考え方や方法を理解し、農業関係者として様々な社会現象を深く広く洞察できる能力を養い、人間がいかに地球環境において他者と共に生きる存在であるのかを把握できるようにする。		
授業内容	1 社会学とは何か—社会学入門 2 社会学の歴史①—近代社会の成立とコント 3 社会学の歴史②—スペンサーとマルクス 4 社会学の歴史③—ヴェーバーとデュルケーム 5 社会調査法①—社会調査の基礎論 6 社会調査法②—量的調査 (アンケート調査) 7 社会調査法③—質的調査 (フィールドワークとヒアリング) 8 社会学の基礎理論①—行為論と社会関係論 9 社会学の基礎理論②—集団論と社会構造論 10 家族—その基礎概念と歴史的位相 11 ジェンダー論の基礎と歴史的展開 12 少子高齢社会—その要因と歴史的展開 13 労働世界の変容—格差社会 14 エスニシティと民族問題—難民・移民・外国人労働者問題 15 グローバル化とリスク社会		
テキスト	毎回の授業で逐次、講義レジュメと学習ポイントの2種類のプリントを配布する。		
成績評価 の方法	レポートを実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○期末に提出する講義理解度確認レポート 40% ○期末に提出する自主研究レポート 30% ○授業への参加・取り組み・発表 30%		
備 考	参考図書『テキスト現代社会学[第4版]』松田健著ミネルヴァ書房 2022		

授業科目 (履修区分)	化学 (教養科目・自然科目)	担当教員	笠嶋 義夫
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>身近なものについて、化学の見地から説明できるようになる。 さまざまなものや現象を、化学の見地から、自分の考えを述べることができるようになる。 農業にとって必要最低限の「化学」の知識を身に付け、説明ができ、簡単な計算ができるようになる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 イベルメクチンの開発とその利用 3 色 4 オゾンと紫外線との関係 5 二酸化炭素と地球温暖化 6 コメとでんぷん (1) 7 コメとでんぷん (2) 8 STS (花持ち剤) 9 物質量の概念 10 物質量について 11 物質量と質量・分子数との関係 12 物質量と体積・質量・分子数との関係 13 化学反応式のたて方 14 化学反応式と物質量 15 期末試験 		
テキスト	「物質科学の基礎としての化学入門」(学術図書出版社/2013年)		
成績評価 の方法	講義内レポート6回(30%)、基礎化学小テスト数回(20%)、 期末試験(50%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	生物学 (教養科目・自然科学)	担当教員	国武 陽子
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	生物学は生命に関する詳細な知識を学ぶことだけではなく、生命を理解することを通じてこの地球の仕組みを理解し、我々人間自身を理解することにつながる。本講義では、生命が何故現在みられるような形をもち、また行動をするのか、進化的な視点から理解を深める。本講義の教育目標は、動植物を扱う上での生物学の体系的な学びを基盤とし、生物と生物の生育環境との関りを意識できる、また、人間との関りなど広い視野で生物をとらえられるミクロとマクロの両方の視点をもてるようになることを教育の目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命とは何か：生物と非生物の違い、生命現象を理解する意味 2. 生命の起源と歴史：生命史、大進化 3. 生命をかたちづくるもの：化学的構造と細胞の仕組み 4. 生命とエネルギー：生命のエネルギー源とそのゆくえ 5. 基礎遺伝①：遺伝子と遺伝、メンデル遺伝 6. 基礎遺伝②：DNAとタンパク質 7. ダーウィンの進化論：進化と遺伝、自然選択と環境適応 8. 生物と環境：資源と生物、生物と環境の相互作用 9. 個体群生態学の基礎：保全の単位としての生物集団 10. 動物行動学：個体レベルの動物の行動原理 11. 様々な生態系① 森林生態系、草地生態系 12. 様々な生態系② 都市生態系、田園生態系 13. 生態系レベルの生物と環境の相互作用、物質循環 14. 生物多様性とその保全：生物多様性の意味および社会的価値 15. 評価試験（筆記試験） 		
教科書 参考書	なし（適宜、資料を配布） 講義内にて紹介		
成績評価 の方法	定期試験（70%）、レポート課題（30%）で判断		
備 考	出欠の取り扱いは千葉県立農業大学校の規定に準じる		

授業科目 (履修区分)	保健・体育実技	担当教員	大塚 正美
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 通年
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
教育目標	スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれる。本授業では、主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。		
授業内容	第1回 ガイダンス (科目の説明：体育とは) 第2回 講義：健康日本21について 第3回 講義：スポーツとは 第4回 講義：人体について 第5回 講義：ホメオスタシスについて 第6回 コーデネーショントレーニング 第7回 ソフトバレー (6チーム；8分) 第8回 レクバレー (6チーム；8分) 第9回 レクバレー (4チーム；15分) 第10回 レクバレー (4チーム；15分) 第11回 卓球 (ダブルス) 第12回 卓球 (シングルス) 第13回 卓球 (団体) 第14回 講義：レジャーとレクリエーション 第15回 前期試験 第16回 講義：身体をつくる栄養 第17回 キックベースボール 第18回 ティーボール(10人打者、全員守備) 第19回 ティーボール(10人制) 第20回 ソフトボール 第21回 アルティメット(6vs6；3チーム) 第22回 アルティメット(4vs4；5チーム) 第23回 アルティメット(4vs4；5チーム) 第24回 バスケットボール (5vs5；3チーム) 第25回 バスケットボール (4vs4；5チーム) 第26回 バスケットボール (4vs4；5チーム) 第27回 バスケットボール (3vs3；5チーム) 第28回 講義：煙草と飲酒について 第29回 講義：体育史 第30回 後期小試験		
テキスト	適時資料の配付を行う。		
成績評価 の方法	講義と実技への取組みと各小テストによる総合判断とする。		
備 考	実技については、運動に適した服装であること。		

授業科目 (履修区分)	基礎英語会話 (教養科目・外国語)	担当教員	安井 俊哉
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
学習目標	1 英会話を聞き取る力を養う 2 英会話の慣用表現を学習する 3 TOEIC Listening 力を向上させる 4 TOEIC Reading 力を向上させる		
授業内容	1回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 2回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 3回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 4回(1)test (1) (TOEIC Listening、Reading 練習問題(1~3回))から (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 5回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 6回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 7回(1)test (2) (TOEIC Listening、Reading 練習問題(4~6回))から (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 8回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 9回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 10回(1)test (3) (TOEIC Listening、Reading 練習問題(7~9回))から (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 11回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 12回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 13回(1)test (4) (TOEIC Listening、Reading 練習問題(10~12回))から (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 14回(1)英会話を聞き取る。 (2)TOEIC Listening、Reading 練習問題 15回(1)映画鑑賞		
教科書 参考書	世界一わかりやすい TOEIC L&R テスト総合模試1 [600点突破レベル]		
成績評価 の方法	出席、授業内テスト、授業態度で総合的に判断		
備 考			

4 専門教育科目

(1) 共通必修科目

授業科目 (履修区分)	生物化学実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	中田 菜々子、清水 敏夫、 佐々木 良規、山下 雅大、 永山 春菜、高田 伯約、 菅澤 太地
対象年次	農学科 1年	期 別	令和6年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	農業生産を取り巻く環境の究明、植物の計測、生理生態を明らかにするために必要な基礎基本の実験操作を学習すると共に、専門専攻（卒業論文）に進むための基礎的な知識および研究手法の修得を目的とする。		
授業内容	1回 実験の心得、顕微鏡及び器具の使い方 2回 中和滴定 3回 雑草の観察と分類Ⅰ 4回 昆虫の観察 5回 雑草の観察と分類Ⅱ 6回 土壌化学性の測定Ⅰ 7回 成長点及び根細胞の観察 8回 農薬安全使用研修、農薬散布・希釈方法Ⅰ 9回 花粉の発芽観察 10回 土壌養分及び施肥方法に関する栽培試験Ⅰ 11回 甲虫類及びチョウ類の標本作成 12回 有機質肥料の作成 13回 病害の防除と分類 14回 土壌養分及び施肥方法に関する栽培試験Ⅱ 15回 葉の構造観察及び蒸散量の測定 16回 土壌化学性の測定Ⅱ 17回 培地作製とホルモン剤の調製 18回 農薬安全使用研修、農薬散布・希釈方法Ⅱ 19回 無菌播種、無菌操作 20回 土壌診断処方箋の活用 21回 組織培養 22回 土壌物理性の測定Ⅰ 23回 農薬安全使用研修、農薬散布・希釈方法Ⅲ 24回 土壌物理性の測定Ⅱ 25回 DNAを増やしてみよう(かずさDNA研) 26回 根の染色 27回 アザミウマの標本作成 28回 土壌生物性の測定 29回 センチュウの観察 30回 期末試験		
テキスト	プリントを配布する		
成績評価の方法	各授業におけるレポート（50%）、授業での取組（40%）、期末試験（10%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農場実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	各専攻教室担当者
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 通年
単 位 数	8単位	時 間 数	240時間
教育目標	農業に関する技術を総合的に体験する。農業者としての基礎的な技術の取得、資質の向上を図る。		
授業内容	<p>前期</p> <p>1～8回目は基本的な作業方法について学ぶ。</p> <p>1：農機具舎・環境美化庫・油庫の利用方法</p> <p>2：トラクタの基本操作・アタッチの着脱、燃料の入れ方</p> <p>3：刈り払い機、バリカンの操作・燃料の入れ方</p> <p>4：肥料の計算・散布方法(背負動噴・散粒機・手散布等)</p> <p>5：鍬や鎌の使い方・研ぎ方・農具や工具の名称</p> <p>6：大型機械試乗</p> <p>7：灌水方法（スプリンクラーや灌水チューブの設置方法、セルトレイや鉢の灌水方法）</p> <p>8：管理機の基本操作</p> <p>9～30回目は11専攻を順番に廻り、各部門における作物の種類、栽培・飼育のねらい、作業内容やスマート農業への取り組み、「GAP」に関する取組などを一通り体験し、農業の全般について理解する。</p> <p>後期</p> <p>各自の将来の進路に合わせて部門を選択し、その部門における基礎的な知識・技術について理解を深める。これにより、2年次に実施する卒業論文の研究テーマを始め、試験区の設定や栽培方法など計画策定に向けた準備とする。</p>		
テキスト	なし		
成績評価の方法	作業への取組姿勢、技術の理解度で評価		
備 考			

授業科目 (履修区分)	国際農業実習 (専門教育・共通必修)	担当教員	本多 正隆、菅澤 太地、 板倉 里絵、吉田 明広、 高田 伯約
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
教育目標	千葉県とは気候風土の異なる地域において、それぞれに発達した農業や理念について学ぶとともに、自然、歴史、文化、産業など幅広い視野を得て、異文化に対する理解力と海外に目を向けた幅広い考え方を身に付ける。また、グループ活動や交流などを通じ、コミュニケーション能力を高め、国際的な農業問題やグローバルな価値観を醸成する。		
授業内容	1 事前研修 2 国際化研修①(農業視察) 3 国際化研修②(農業視察) 4 国際化研修③(農業視察) 5 国際化研修④(農業視察) 6 研修報告発表		
テキスト	なし		
成績評価の方法	実習態度・報告書及び発表内容で評価する。 報告書の未提出は不可とする。		
備 考	視察先の資料やパンフレット等を参考図書とする。		

授業科目 (履修区分)	農業派遣実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	中田 菜々子、板倉 里絵、 清水 敏夫、吉田 明広、 高田 伯約
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 通年
単 位 数	3単位	時 間 数	90時間
教育目標	千葉県内の先進農家等に派遣し、農業実習を通じて、実際の農業経営（農作業等）、農家生活を体験する。また、優れた農業者と交流することにより人間性・社会性を身に付ける。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学校又は自家では体験できない農業技術、農家生活等を知る 2 先進農家の農業または農村生活に対する考え方、取り組み方を学ぶ 3 先進農家の経営、技術を見て、今後の大学校で学びたい事、学ぶべきことを見つける 4 農業及び農村生活の良さ、厳しさを体得する 5 農業社会の人脈を広げる 		
テキスト	「農業派遣実習の手引き」等の指導資料 「農業派遣実習記録簿」		
成績評価 の方法	毎週の農業派遣実習定期報告書・農業派遣実習記録簿・レポートの提出、 学習・生活態度、農家及び農業事務所等の評価		
備 考			

授業科目 (履修区分)	キャリアサポート実習 (専門教育・共通必修)	担当教員	高田 伯約、本多 正隆、 佐瀬 善浩、中田 菜々子、 山下 雅大、菅澤 太地
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 通年
単 位 数	4単位	時 間 数	120時間
教育目標	農業経営体や関連する団体・企業等を視察訪問し、農業及び関連産業に対する見識を高め、職業選択の一助とする。また、社会人として必要な知識・技術や資格の習得に向けた講義を行い、就農・就職に対する理解促進を図る。		
授業内容	1回 講義：就農・就職について [進路希望調査①] 2回 講義：農業派遣実習ガイダンス (希望調査) 3回 視察：農業法人の事業内容 [旭愛農生産組合] 4回 視察：農業法人の業務内容 [(有) 椎名洋ラン園] 5回 視察：農業法人の事業内容 [長生フロンティアファーム] 6回 視察：農業協同組合の事業内容 [JAグリーンウェーブ長生] 7回 講義：農業派遣実習ガイダンス (実習カード作成、派遣先調整) 8回 視察：卸売市場の事業内容 [成田市公設地方卸売市場] 9回 視察：種苗会社の事業内容 [M&Bフローラ千葉農場] 10回 講義：国際農業実習 事前学習①、意見発表原稿作成 11回 視察：農業法人の事業内容 [株式会社芝山農園] 12回 視察：農業法人の事業内容 [新宿営農組合] 13回 講義：農業派遣実習担当者会議 14回 視察：国際農業実習 事前学習②、講演「新規就農について」 15回 講義：ルーラル電子図書館説明会、講演「農業事務所について」 16回 講義：就農・就職について [進路希望調査②] 17回 視察：農業法人の事業内容 [高秀牧場] 18回 視察：農業資材メーカーの事業内容 [平林物産株式会社] 19回 講義：国際農業実習事前学習③ 20回 視察：農業法人の事業内容 [(株) 切替農園] 21回 視察：農業法人の事業内容 [(株) アグリアドバンス愛彩畑] 22回 視察：農業機械メーカーの事業内容 [(株) 丸山製作所] 23回 視察：先進農家の事業内容 [内山農園] 24回 講義：スーツ着こなしセミナー、労働法セミナー 25回 視察：観光農園の事業内容 [房総十字園] 26回 視察：種苗会社の事業内容 [さかたのタネ (君津育種場)] 27回 講義：国際農業実習事前学習④ 28回 講義：国際農業実習報告書等の作成演習 29回 講義：進路希望調査③、国際農業実習報告会練習 30回 講義：国際農業実習報告会		
テキスト	プリント配布		
成績評価 の方法	レポート内容で評価する。レポートの未提出は欠席扱いとする。		
備 考	視察先の資料やパンフレット等を参考図書とする。		

授業科目 (履修区分)	情報処理概論 I (専門科目・共通必修)	担当教員	池尻 勉
対象年次	農学科 1年	期別	令和6年度 後期
単位数	2単位	時間数	30時間
教育目標	大学校生活における情報処理・伝達・発表手段としてのパソコン基本操作を、ウィンドウズ上で動作する基本的なアプリケーションソフトの演習により習得する。		
授業内容	1 ガイダンス…コンピューターの取り扱いに親しむ。 基礎知識…使用上の知識を学習する。 2 ワードプロソフトの活用 (Word) …文書の作成 3 // …図や表の挿入・編集、文書の印刷 4 // …表現力のアップ・レポートのレビュー 5 // …便利な機能、練習問題 6 表計算ソフトの利用 (Excel) …データの入力、修正、保存 7 // …表の作成・編集、グラフの作成・編集、印刷 8 // …データベース機能の活用、関数の活用、表示形式 9 // …ピボットテーブルの作成、マクロの作成、練習問題 10 プレゼンテーションソフトの利用 (PowerPoint) …プレゼンテーションの作成、オブジェクトの挿入・編集 11 // …構成変更、スライドの共通デザインの設定 12 // …プレゼンテーションの実行、特殊効果の設定 13 // …発表者用ノートの作成、練習問題 14 総括…情報処理に関する現状を学習する。 15 期末試験		
テキスト	「情報リテラシー アプリ編 Windows 10・Office 2019 対応」 (FOM 出版)		
成績評価の方法	期末試験を実施し、評価区分は以下のとおりとする。 ○情報処理に関する基礎知識、Word、Excel、PowerPoint に関する 知識問題：50% ○演習問題による実技試験：50%		
備考			

授業科目 (履修区分)	作物・園芸学概論 (専門教育・共通必修)	担当教員	山下 雅大																																													
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期																																													
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間																																													
教育目標	<p>円滑に農場実習に参加できる最低限の基礎知識を、本講義により早期に習得する。</p> <p>作物・園芸生産に関する基礎知識・基礎技術を身につけると共に作物栽培を取り巻く生理生態、環境について修得し、応用できる能力の基礎を学習する。</p> <p>最新の農業技術であるスマート農業について、その内容・効果等の事例を用いて習熟させる。</p>																																															
授業内容	<table border="0"> <tr> <td>1回</td> <td>農業に関する単位・用語</td> <td>農業に関する基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>計算問題事例</td> <td>農業で必要となる計算 倍率百分率等</td> </tr> <tr> <td>3回</td> <td>作物学・園芸学概論とは</td> <td>作物栽培の起源と文化及び役割</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>世界の食料事情、自給率</td> <td>世界及び我が国の食料生産・消費</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>作物の成長と体の仕組み</td> <td>作物の生活史</td> </tr> <tr> <td>6回</td> <td>作物の収量と栽培環境</td> <td>収量、光合成、物質生産</td> </tr> <tr> <td>7回</td> <td>作物の品種・特性</td> <td>原産地、品種とは、その特徴</td> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>地域環境・土地利用</td> <td>作物の役割、生産と環境について</td> </tr> <tr> <td>9回</td> <td>園芸の歴史 原産地</td> <td>園芸生産の起源と歴史</td> </tr> <tr> <td>10回</td> <td>園芸作物の種類と分類</td> <td>自然分類と人為的分類</td> </tr> <tr> <td>11回</td> <td>園芸作物の生理・生態</td> <td>園芸作物の栄養器官・生殖器官の名と形態の多様性及び生理・生態</td> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>生育環境と栽培</td> <td>気象条件・土壌環境・立地条件</td> </tr> <tr> <td>13回</td> <td>園芸作物の肥培管理</td> <td>施肥、防除、収穫、品質保持</td> </tr> <tr> <td>14回</td> <td>農業生産の展望</td> <td>スマート農業の導入</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1回	農業に関する単位・用語	農業に関する基礎知識	2回	計算問題事例	農業で必要となる計算 倍率百分率等	3回	作物学・園芸学概論とは	作物栽培の起源と文化及び役割	4回	世界の食料事情、自給率	世界及び我が国の食料生産・消費	5回	作物の成長と体の仕組み	作物の生活史	6回	作物の収量と栽培環境	収量、光合成、物質生産	7回	作物の品種・特性	原産地、品種とは、その特徴	8回	地域環境・土地利用	作物の役割、生産と環境について	9回	園芸の歴史 原産地	園芸生産の起源と歴史	10回	園芸作物の種類と分類	自然分類と人為的分類	11回	園芸作物の生理・生態	園芸作物の栄養器官・生殖器官の名と形態の多様性及び生理・生態	12回	生育環境と栽培	気象条件・土壌環境・立地条件	13回	園芸作物の肥培管理	施肥、防除、収穫、品質保持	14回	農業生産の展望	スマート農業の導入	15回	期末試験	
1回	農業に関する単位・用語	農業に関する基礎知識																																														
2回	計算問題事例	農業で必要となる計算 倍率百分率等																																														
3回	作物学・園芸学概論とは	作物栽培の起源と文化及び役割																																														
4回	世界の食料事情、自給率	世界及び我が国の食料生産・消費																																														
5回	作物の成長と体の仕組み	作物の生活史																																														
6回	作物の収量と栽培環境	収量、光合成、物質生産																																														
7回	作物の品種・特性	原産地、品種とは、その特徴																																														
8回	地域環境・土地利用	作物の役割、生産と環境について																																														
9回	園芸の歴史 原産地	園芸生産の起源と歴史																																														
10回	園芸作物の種類と分類	自然分類と人為的分類																																														
11回	園芸作物の生理・生態	園芸作物の栄養器官・生殖器官の名と形態の多様性及び生理・生態																																														
12回	生育環境と栽培	気象条件・土壌環境・立地条件																																														
13回	園芸作物の肥培管理	施肥、防除、収穫、品質保持																																														
14回	農業生産の展望	スマート農業の導入																																														
15回	期末試験																																															
テキスト	必要に応じて資料を配布																																															
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%)、レポート・小テスト及び状況 (30%)																																															
備 考																																																

授業科目 (履修区分)	土壌肥料概論 (専門教育・共通必修)	担当教員	高田 伯約
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	土壌の成り立ちと諸特性、植物の栄養素としての肥料特性と施肥効果、作物の生産性向上に係る土壌管理の基礎知識を習得することを目的とする。		
授業内容	1回 土壌肥料概論の学習について 土壌の分類Ⅰ（世界の土壌）、土と土壌、土壌の生成 2回 土壌の分類Ⅱ（日本の土壌） 3回 土壌の分類Ⅲ（千葉の土壌） 小テスト 4回 土壌の特性Ⅰ（物理性） 5回 土壌の特性Ⅱ（化学性） 6回 土壌の特性Ⅲ（生物性） 小テスト 7回 植物の必須元素と栄養特性Ⅰ（多量要素等） 8回 植物の必須元素と栄養特性Ⅱ（微量要素等） 9回 施肥の原理と肥料の種類・特性 小テスト 10回 土壌診断、施肥量の計算方法 11回 有機物と土づくり、土壌改良資材 12回 環境にやさしい施肥技術、施肥方法 小テスト 13回 作物別の土壌の特性 14回 期末試験 15回 学習のまとめ		
テキスト	「土と施肥の新知識」（渡辺和彦ほか 全国肥料商連合会）		
成績評価の方法	小テスト（4回）・期末試験（1回）を実施する。 評価配分は以下のとおりとする。 期末試験（40%）、小テスト（40%）、授業の取組態度（20%）		
備 考			

授業科目 (履修区分)	畜産学概論 (専門科目・共通必修)	担当教員	前之園 孝光
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	畜産学の基礎と概要について学習し、各家畜の特徴と飼育の基本技術、生産コストを学習する。また、人間と畜産物・家畜との関わりについても理解を深め、学生生活や社会生活を豊かにする。		
授業内容	1回、第1章：人間と食生活、畜産物、家畜の役割（1～20頁） 2回、第1章：肉、牛乳、卵の栄養と世界の食料事情（21～52頁） 3回、第2章：牛の特徴と品種、乳牛の繁殖、一生（53～63頁） 4回、第2章：肉牛の一生、飼養技術、繁殖技術（53～63頁） 5回、第2章：豚の育種、繁殖、飼養技術（64～68頁） 6回、第2章：鶏の育種、繁殖、飼養技術（69～75頁） 7回、第2章：家畜の飼料、家畜の糞尿利用（76～81頁） 8回、第2章：家畜の病気と獣医師の役割（82～90頁） 9回、第3章：日本の畜産の特徴（91～112頁） 10回、第3章：酪農、肉牛生産コストと経営（91～112頁） 11回、第3章：養豚、養鶏生産コストと経営（91～112頁） 12回、第4章：畜産物の流通と消費動向（113～146頁） 13回、第5章：世界の畜産と国際貿易（147～164頁） 14回、第6章：6次産業化、畜産経営と情報利用（164～186頁） 15回、第6章：家畜の福祉と耕畜連携、期末試験（164～186頁）		
テキスト	「図解 知識ゼロからの畜産入門」 （田島淳史監修 一般社団法人 家の光協会） 必要に応じ、スライド、動画を活用。適宜、プリントを配布。		
成績評価 の方法	授業中の態度と取り組み（15%）、ノートの提出とその評価（10%）各単 元テストとレポート（50%）、筆記試験（25%）。 以上の配分で評価する。 日常の学習に重点をおいた評価を行う。		
備 考	本学図書館所蔵書籍を紹介し、その有効利用を図る。		

授業科目 (履修区分)	農業経営・経済学概論 (専門科目・共通必修)	担当教員	保坂 信久
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業経営学・経済学概論は、グローバル化する社会の中で、農業経営と農業経済の基本概念と基礎理論を理解するとともに、農業経営者として必要な知識と考え方を習得する。		
授業内容	1回 農業経営・経済とは 人間学と経営学 2回 経営資源の活用と経営目標 3回 世界から見た日本農業の現状 4回 意思決定、経営環境マネジメント (SWOT 分析演習) 5回 農産物の流通について 6回 資金、資材、労働力の調達について 7回 農業所得の考え方 8回 農業所得の考え方と農家所得、成長戦略 9回 経営戦略の策定 (損益分岐点、線形計画法など) 10回 経営の多角化、集落営農などの組織化 様々な農業経営体 11回 農業法人と家族経営 12回 会社法人と農事組合法人について 13回 複式簿記の基礎知識 14回 露地野菜の技術と経営マインド 15回 期末試験		
テキスト	毎回、資料を配布する。		
成績評価の方法	小テストを含む筆記試験 (70%)、出席状況・授業態度 (30%) で評価する。		
備 考	農業経営者として基本的なマインドや事例を紹介しながら授業を行う。		

授業科目 (履修区分)	農業会計論 (専門教育 共通必修)	担当教員	井上 敬裕
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	複式簿記の基礎を理解する 農業経営と会計制度の関係性を理解する 農業簿記検定3級に合格する		
授業内容	1 簿記とは 2 農業簿記の特徴 3 簿記一巡の手続き 4 勘定科目 5 収益・費用の記帳方法1 6 収益・費用の記帳方法2 7 流動資産および流動負債など1 8 流動資産および流動負債など2 9 流動資産および流動負債など2 10 固定資産 11 中間試験 12 決算書の作成 13 決算書の作成 14 決算書の作成 15 期末試験		
テキスト	農業簿記検定教科書3級第2版(大原出版/2022年) 農業簿記検定問題集3級第2版(大原出版/2021年) 著書名(出版社名/出版年度)		
成績評価 の方法	中間試験・期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○中間試験:25% ○期末試験:25% ○授業への参加・取り組み・発表:50%		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業機械実習 (専門教育・共通必修)	担当教員	内山 和也、林 貴雄 内山 和也、中島 勇貴
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 通年
単 位 数	3単位	時 間 数	90時間
教育目標	農業機械実習は、農業機械の安全な操作方法と効率的に利用するための知識と技術を学ぶ。農業機械実習では、1 農業機械士養成研修か、2 農業機械基本研修を選択する。		
授業内容	<p>1 農業機械士養成研修</p> <p>(1) 農業機械に関する基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業対応の最新農業機械情報 ・農作業安全、農業機械の基礎 ・各種作業機の構造と作業方法、農業機械の効率利用 <p>(2) 農業機械の運転操作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラクターの公道走行における運転操作 <p>(3) トラクターへの作業機(プラウ)の装着</p> <p>(4) 耕耘整地作業機械(ロータリ耕)の取扱い</p> <p>(5) 農業機械の整備点検</p> <p>(6) 大型特殊免許(農耕車限定)試験</p> <p>(7) 農業機械士検定試験</p> <p>2 農業機械基本研修</p> <p>(1) 農業機械に関する基礎知識</p> <p>(1の(1)と同じ)</p> <p>(2) 農業機械の運転操作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラクター、管理機、草刈機械など <p>(3) 耕耘整地作業機械の取扱い</p> <p>(4) 農業機械の整備点検</p> <p>(5) 農業機械の学科及び実技試験</p>		
テキスト	<p>農業機械士技能検定試験テキスト《第5版》</p> <p>農業機械士技能検定試験問題例題集</p> <p>(一般社団法人日本農業機械化協会編)</p>		
成績評価 の方法	<p>成績評価は、農業機械士技能検定試験の成績やこれに準ずる農業機械や学科及び実習の試験成績 70%、農業機械実習への取組み姿勢 30%の合計点で評価する。</p>		
備 考	<p>農業機械士養成研修は、大型特殊免許の受験時に普通自動車又は中型自動二輪等免許取得済が条件となる。</p>		

授業科目 (履修区分)	食品加工実習 (専門科目・共通必修)	担当教員	木内 美和・山下 富士子 柴野 幸雄・今井 由紀子
対象年次	農学科 1年 農学科 2年	期 別	令和6年度 通年
単 位 数	3単位	時 間 数	※90時間
教育目標	農産物の経済性、保存性を高めるために、必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付ける。		
授業内容	<p>農学科1年(後期)・・・※令和7年度12回実施予定</p> <p>1回 ガイダンス(実習内容及び加工室の利用方法、衛生管理)</p> <p>2回 果実の加工</p> <p>3回 卵の加工</p> <p>4回 小麦粉の加工</p> <p>5回 小麦粉の加工</p> <p>6回 サツマイモの加工</p> <p>7回 カボチャの加工</p> <p>8回 ジャガイモの加工</p> <p>9回 豆類の加工(豆腐の製造技術)</p> <p>10回 コメの加工(上新粉及び米粉の加工)</p> <p>11回 大掃除及びテスト</p> <p>農学科2年(前期)・・・※令和5年度11回実施済</p> <p>12回 膨らむ原理①(イーストの性質を利用した技術①)</p> <p>13回 膨らむ原理②(イーストの性質を利用した技術②)</p> <p>14回 固まる原理①(ゼラチンと寒天の性質)イモ羊羹</p> <p>15回 膨らむ原理(重曹の性質を利用した技術)</p> <p>16回 膨らむ原理⑤(ベーキングパウダーを利用した技術)</p> <p>17回 膨らむ原理⑥(水蒸気を利用した技術)</p> <p>18回 小麦粉の種類と出汁</p> <p>19回 長く保存する原理②(野菜の加工)</p> <p>20回 膨らむ原理④(卵白の起泡性を利用した技術)</p> <p>21回 固まる原理②(ペクチンの性質)</p> <p>22回 課題制作(六次産業化に向けての取り組み)</p> <p>23回 課題発表会</p>		
テキスト	<p>適時プリントを配布する</p> <p>「食品製造」(実教出版)「新食品成分表」(東京法令出版)</p>		
成績評価 の方法	<p>実習態度及び出席状況(20%)、レポートの提出・内容(30%)</p> <p>確認テスト or 課題発表会(50%)</p>		

授業科目 (履修区分)	流通マーケティング論 (専門科目・共通必須)	担当教員	中山 正敏
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期
単 位 数	2単位	時間数	30時間
教育目標	<p>農産物の流通の実態を把握する。</p> <p>事例研修を通して、実際の農産物の取引や農家・農協・法人等の具体的な販売方法等の取組みを学ぶ。</p> <p>基礎的なマーケティングを学び、消費者・実需者・取引先などに対する提案力の向上や売り方のスキルアップを図る。</p>		
授業内容	<p>1回 農産物の生産、流通の概要</p> <p>2回 取引先を知る (スーパーマーケット)</p> <p>3回 // (生協・契約栽培等)</p> <p>4回 売り場を考える (通販・直売所・インターネット ・圃場販売など)</p> <p>5回 //</p> <p>6回 //</p> <p>7回 生産と消費を結ぶ流通の役割 (小テスト)</p> <p>8回 マーケティングの基礎知識</p> <p>9回 // (農業にマーケティングの発想を)</p> <p>10回 // (実習・作業)</p> <p>11回 農協の販売事業とマーケティング</p> <p>12回 ブランドを考える。6次産業化を考える。</p> <p>13回 試験</p> <p>14回 販売戦略を考える</p> <p>15回 試験解説とまとめ</p>		
教科書	<p>講師配布資料</p> <p><参考書>農業のマーケティング教科書</p>		
成績評価 の方法	授業参加度 (15%)、試験・小テスト (65%) 実習等 (20%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	キャリア基礎講座 (専門科目・共通必修)	担当教員	佐藤 真理子、大島 啓 孝、 土屋 浩之、田中 秀樹
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	<p>就職・就農を含め「卒業する自分」をイメージして、早くから進路を考え、将来の目標へ向け、今できることに自立的に取り組む姿勢を育む。</p> <p>社会で求められるコミュニケーション能力、チームワーク能力を理解し身に付ける。</p> <p>就職・就農に関する知識・情報を活用し、考え行動する選択肢を増やし、自立的に積極的に行動することができることを目指す。</p>		
授業内容	<p>1回 オリエンテーション</p> <p>2回 自己分析Ⅰ 自分の強みを知る</p> <p>3回 自己分析Ⅱ 強みから自己PRをつくる</p> <p>4回 自己分析Ⅲ 会社に応じた自己PRを考える</p> <p>5回 就職活動 求められる人材を考える</p> <p>6回 採用試験 採用試験の多様性と目的を知る</p> <p>7回 ビジネスマナー 会社訪問に必要なビジネスマナーを知る</p> <p>8回 企業へのアプローチ 求人情報の見つけ方</p> <p>9回 自己分析Ⅳ 自己PRとエピソードを考える</p> <p>10回 履歴書Ⅰ 履歴書の基礎理解</p> <p>11回 履歴書Ⅱ 履歴書と自己PR</p> <p>12回 履歴書Ⅲ 履歴書を完成させる</p> <p>13回 面接対策Ⅰ 採用試験と面接の関連性を知る</p> <p>14回 面接対策Ⅱ 面接対策と自己PR</p> <p>15回 面接対策Ⅲ、まとめ 模擬面接練習</p>		
テキスト	授業の都度配布する		
成績評価 の方法	「社会人基礎力」の取得状況とワークショップによるチームワークの視点での評価を取り入れ、授業態度・姿勢、授業中に発揮できたこと、授業での提出物(履歴書他)の完成度について評価する。		
備 考			

(2) 共通選択科目

授業科目 (履修区分)	農業環境概論 (専門科目・共通選択)	担当教員	多田 充
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 前期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業は植物や動物などの生物を対象とし、それを取り巻く自然環境や社会環境との相互作用の基で成り立っている産業である。本講義では農業が持続的に発展するためには周辺環境との調和が必要であることを理解し、その調和を維持するために必要な、環境配慮の基礎的能力を養う。		
授業内容	1回 オリエンテーション 2回 農業と自然環境(1):「食べ物のネットワーク図づくり」 3回 農業と自然環境(2):農業に影響を与える自然環境 4回 農業と自然環境(3):自然環境に影響を与える農業 5回 事例紹介・農業と水環境(1):バーチャルウォーター 6回 事例紹介・農業と水環境(2):水循環 7回 事例紹介・農業と水環境(3):水危機とその対策 8回 農業と自然環境(4):まとめ 9回 農業と社会環境(1):農業へのニーズ分析 10回 農業と社会環境(2):農業に影響を与える社会環境 11回 農業と社会環境(3):社会環境に影響を与える農業 12回 環境リスクマネジメント(1):リスク管理の手法 13回 環境リスクマネジメント(2):事例分析 14回 まとめ 15回 期末試験(持ち込み不可)。		
テキスト	プリントを配布する。		
成績評価の方法	課題(グループワーク等)、期末試験を実施する。評価配分は以下の通り。 期末試験(50%)、授業内における課題(30%)、授業への参加・取組状況(20%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	生物統計学	担当教員	溝田 俊之
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	データの整理・要約方法を身につけ、データの要約やグラフからデータの傾向について考察できるようになる。基礎的な推測統計学が理解できる。		
授業内容	1 統計学の概要と考え方 母集団と標本 2 情報の可視化 グラフの作り方 3 2変量の関係 相関係数 4 標本集団の特性の捉え方 代表値とばらつき 5 度数分布とヒストグラム 6 度数分布から確率分布へ 確率密度関数 7 正規分布の特徴 標準偏差と割合 8 区間推定 9 χ^2 (カイ自乗) 分布とF分布 10 仮説検定 母平均の検定 11 z検定とt検定 12 2群の平均の差の検定 13 分散分析 14 分散分析と多重比較 15 期末演習試験		
テキスト	栗原伸一著「入門 統計学(第2版)」、オーム社 参考図書：福井正康著「基礎からの統計学」, https://www.heisei-u.ac.jp/ba/fukui/text.html		
成績評価の方法	期末演習試験を実施する。 評価配分は以下の通りとする。 期末演習試験 (40%)、演習への取り組み・発表 (40%)、平常点(20%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業法律学 (専門教育・共通選択)	担当教員	大島 大
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	農業（特に農地）に関する法律について、歴史的背景や政策などを踏まえて法制度の変遷および問題点を検討することによって、現在の農業の在り方についての理解を深める。		
授業内容	1回 ガイダンス・「農地」とは 農地の定義（農地法・不動産登記法）について。 2回 農地改革 地租改正から農地改革を経て農地法制定まで。 3回 農地法 1 農地法の目的やこれまでの農地法改正について。 4回 農地法 2 権利移動の制限（3条）。貸借の自由化など。 5回 農地法 3 転用の制限（4条）。農振法・都市計画法や生産緑地法。 6回 農地法 4 3条4条以外の内容。農業委員会について。 7回 農地の流動化 1 農業基本法から農用地利用増進法まで。 8回 農地の流動化 2 農業経営基盤強化促進法（基本方針・認定農業者等）。 9回 農地の流動化 3 農業経営基盤強化促進法による農地の権利移動。 10回 食の安全と流通 1 食品安全基本法、食品衛生法、JAS法など。 11回 食の安全と流通 2 農薬取締法、トレーサビリティ、PL法など。 12回 米政策 1 食管法から旧食糧法、改正食糧法まで。 13回 米政策 2 直接支払制度について 14回 農家の税金 所得税、法人税、住民税、相続税など。 15回 期末試験		
テキスト	每授業時にレジュメを配布します。 必要のあるときに随時紹介します。		
成績評価 の方法	期末試験を実施する。評価配分は以下の通り。 試験(50%)、授業への参加・取組(50%)		
備 考			

授業科目 (履修区分)	農業史 (専門教育・共通選択)	担当教員	宮崎 勇
対象年次	農学科1年	期 別	令和6年度 後期
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
教育目標	当大学の文化祭は「社稷祭」。その“Identity”をそれぞれがどのように表現するのか考える、その機会の提供が目標。		
授業内容	<p>1/3が農業白書。2/3が作成教材。その第1講が「日本(千葉県)はいつから工業国か」。第2講が「日本(千葉県)はいつまで農村社会か」</p> <p>1 2021年版「食料・農業・農村白書」購読</p> <p>2 //</p> <p>3 //</p> <p>4 //</p> <p>5 第1講：西印旛沼での「スーパー水田」の展開</p> <p>6 : 国破れて、「農学連携」の農事研究会</p> <p>7 : 灌漑・二毛作の為の土地改良事業</p> <p>8 : 西印旛沼・佐倉と北印旛沼・成田の対立</p> <p>9 : リスク・コストの「農建連携」による京葉工業地帯の構築</p> <p>10 第2講：利根川の「内側廻し」と滞水常習地</p> <p>11 : 印旛沼域の営農事情と花見川開削陳情</p> <p>12 注釈講：「1930年代工業国成立」説に対する新しい評価</p> <p>13 : 「近現代一体」説に対する新しい評価</p> <p>14 : 「Agricultureは農業」説に対する新しい評価</p> <p>15 テスト</p>		
教科書 参考書	食料・農業・農村白書		
成績評価 の方法	最終日のテスト。評価は農業白書が40%。受講録が60%。		
備 考	近代と現代、一様化と多様化、農業社会と工業社会、農業とAgriculture、CooperationとPartnershipの違いを説明する。		